

象牙質知覚過敏症

～しみるような歯の痛みが起きたら～

象牙質知覚過敏症とは

しみるような歯の痛みを感じたとき、皆さんが一番に思いつく歯のトラブルは何ですか？多くの方は「むし歯かな？」と感じるはずですが、冷たい水がしみたり、歯ブラシが当たって痛みを感じたりする場合には「象牙質知覚過敏症」の可能性があります。（図1）よく知覚過敏と呼ばれるこの疾患は、歯の内部にある象牙質という組織が何らかの原因で露出し、象牙細管と呼ばれる細い管が多数開いた状態になることで発症します。この細い管を通して刺激が歯の神経（歯髄）に伝わるとしみるなどの痛みが生じます。（図2）一方、象牙質が露出しているもしみない場合には細い管は閉まっているために刺激が遮断されて歯の神経へと伝わりません。

図1 歯がしみる際に疑われる疾患

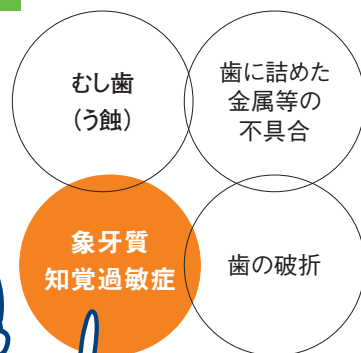
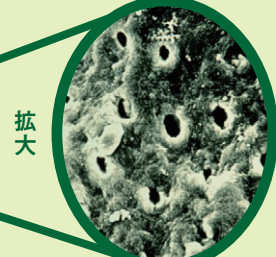


図2



↑ 歯茎が痩せ、歯の根元部分が露出している状態



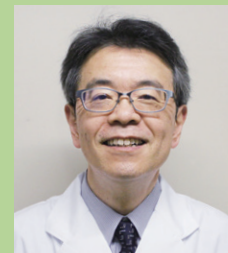
多数の細い管（象牙細管）が開いていることが分かる。この管を通して刺激が伝わり、痛みを感じる

今回は、誰にでも起こりうる歯のトラブルについてご紹介します。

患者さんへのメッセージ

歯のトラブルの多くは、痛みを感じる段階では重症化してしまっていることが多くあります。まずはかかりつけ医を持ち、定期的に健診を受けましょう。

■説明は
むし歯科
副診療科長・総務医長
菅 俊行（すげ としゆき）
■お問い合わせ先
歯科外来
Tel: 088-633-7370

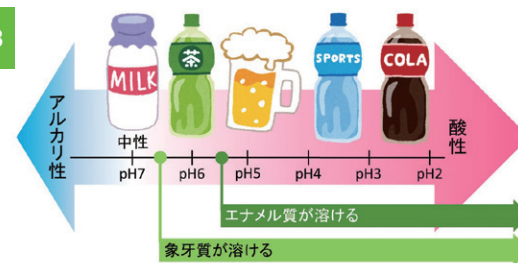


予防するには

象牙質知覚過敏症を予防する手段のひとつとして、歯磨きがあります。歯の表面についた汚れを除去しておくことは、唾液成分による歯の表面の修復（再石灰化）を促進します。しかし、強い力で歯磨きを行うとエナメル質がすり減って逆効果となる場合もあります。優しい力で丁寧に行ってください。

あわせて、歯を溶かすような飲食物を知ること也很重要です。市販されている飲料水の中には、酸性度が高いものも多く（図3）、長時間かけて飲んだり、日常的に摂取したりすると口腔内が常に酸性の状態となり、歯が溶け続けてしまいます。飲み物だけでなく、果物や酢の物など酸味の強い食物も同様です。このような歯を溶かす可能性のある飲食物を摂取した場合には水やお茶を飲むことにより、口の中に残っている酸を洗い流すとよいでしょう。

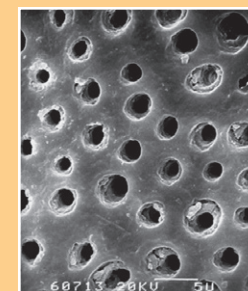
図3



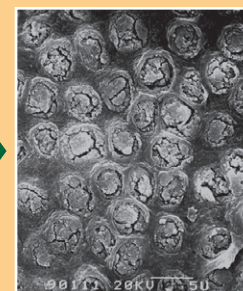
治療について

象牙質知覚過敏症の治療では開口した細い管を封鎖するために薬剤などを塗布する治療を行います。また、噛む力が強い場合には噛み合わせを調整することも必要になります。発症してそれほど時間がたっていない、あるいは症状が軽度の場合には自然治癒や、市販されている知覚過敏用歯磨き剤の使用で症状が消失する場合もあります。

治療による歯の表面の変化



薬剤塗布前
（細い管が開いた状態）



薬剤塗布後
（細い管は封鎖されている）